

長畝ふるさと通信

【2012年10月号】

■ 23年産米を振り返って…



① 爆弾低気圧 4月3日、佐渡を襲った「爆弾低気圧」。育苗ハウスはズタズタに引き裂かれ、ビニールが飛ばされて電柱に引っかかっています。こんなに大きなビニールが強風で見事にはためています。



そういえば朝起きたら家の隣のお寺の木が根っこから折れていました。「これは大変だ！」急いでハウスへ向かって辺りを見回すとただただ呆然…信じられない光景が…

② それでも苗は力強く育っていった

何とか種まきに間に合わそうと、組合員総出でハウスの復旧作業。つぎはぎだらけのビニールでどうにか苗を入れる準備は整いました。4月中には例年通り約19,000箱の播種が無事終了し、ほっと一段落。あとは田植えまでに丈夫な苗にしてください。



③ 田植えは晴天続き



5月に入ると晴天続き。日焼けで見る見る顔が「黒人化」していくのを実感しながら朝から晩まで田植機に乗っていました。育苗の苦勞がウソのように晴れ晴れとした気分です。38年ぶりにトキのヒナも誕生し、何となくうれしい気持ちで一杯でした。

④ 草取り応援隊に感謝！

6月は無農薬栽培の雑草退治強化月間です。東京のNPO「めだかの学校」の皆さんや、東京農業大学の学生君が額に玉のような汗をかきながら、一生懸命田んぼの雑草退治をしてくれました。おかげで今年の収穫量は昨年を大きく上回って10a当たり330kg(ちなみに昨年は過去最低の210kg)もありました。こうした皆さんの協力無しにはやれないのです。



⑤ 7月は「穂肥」を播いて「1俵増産」作戦

7月にはいると稲のエネルギー補給のために「穂肥」を播いてやります。背中に20kgの肥料を背負って長い畦道をひたすら歩いて散布します。ただ、肥料過多になるとお米のタンパク値が上がって食味を落としたり、必要以上に米粒が付きすぎて収穫時に稲が倒伏したりする恐れがあるので、ただ播けばいいってモンじゃありません。



⑥ そして実りの秋 「豊作だあ〜」

8月お盆には花が咲き、9月8日、いつもより少し早い稲刈りに突入。黄金色の田んぼにコンバインが次々と飛び込み、稲をスミからスミまでずずい〜と刈っていきます。ライスセンターに搬入



された籾を見て「今年は豊作」を確信しました。コシヒカリの平均反収は約570kg、平年より100kgも増収です。秋の土壌改良に始まり、育苗床土の改良、夏の穂肥、そして何より天候にも恵まれた結果でしょう。農作物は工業製品とは違い天候に大きく左右されますが、「豊作」は百姓にとって何よりの喜びであり励みです。お腹いっぱいご飯を召し上がってください。「おかわりは自由です！」